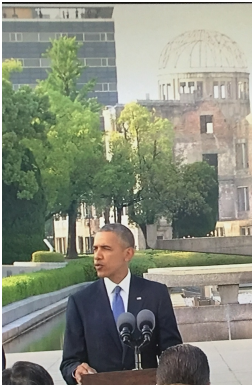




## 田川じゅいち

ミニかわら版

## オバマ大統領の広島訪問が実現



NHK テレビから撮影

公明党は、あらゆる機会に世界の指導者が被爆地・広島を訪問することを訴えてきました。2011年には、広島市長や外務省関係者に対し、核拡散防止条約（NPT）再検討会議の広島開催を目指すよう要望。この年、松井市長は、平和宣言の中で国際会議の広島招致を世界にアピールしました。国会では、斉藤鉄夫衆議院議員が同趣旨の内容を国会で質問し、2014年のNPDI外相会合の広島開催に結びついています。また、今年の4月のG7広島外相会合では、広島宣言が発出され、政治的指導者の被爆地訪問が訴えられました。



今回のオバマ大統領の広島訪問については、谷合正明参議院議員をはじめ多くの公明党の国会議員が訴えていただいた成果です。山口那津男公明党代表も、米国のキッシンジャー元国務長官に会った折に大統領の広島訪問の要望をしたり、代々の米国大使にも訴えたりしました。そして、今年5月27日、オバマ大統領は、米国の現職大統領として初めて広島訪問が実現。この広島訪問は、「核兵器のない世界」を目指す国際的機運を再び盛り上げる上で、極めて重要な歴史的機会となりました。



外務省への要望活動

私は、核廃絶の決意を固める地として、被爆地にこれからも世界の指導者が訪れるように政府に、自治体にも働きかけていきたい。そして、核兵器禁止条約の制定に向けて、幅広い市民との連帯を築いていきたい。「核なき世界」実現に迫るためにあらゆる努力を継続することを決意しています。